

むゆうげ



2011(平成23)年
11月1日



相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666
FAX(072)692-0769

親鸞聖人
750回大遠忌



秋季・みんなの法話

「いのち」の目覚め

「めさまし」とは

び、目を覚まさせよ。の意味で使用されて
いるようです。

これは弔電によくある「ご冥福」と同じ
で、亡き人に対する大変失礼であるだけ
なく、如来さまをないがしろにしている考
え方です。

「冥」の字は、日と六とで十六日と読み、

みなさんは弔問に行かれる時、金封の
上書きを何と書かれるでしょうか。「御仏
前」「御香資」「御香典」「御香奠」…。
長崎県島原地方では「目覚」と書かれる
そうです。熊本県の一部でも、この語を用い
るようです。

地方によつては、ご遺体のある間は「御靈
前」で、お骨になると「御仏前」と聞き、「淨
土真宗でしょ…？」と問い合わせたこともあります。特にお子さまを亡くされたお母さんの
想いとして、この言葉はよくわかります。

亡き人に大変失礼

①もう一度目を覚ましてほしい。…残さ
れた者の想いとしては、大変よくわかりま
す。特にお子さまを亡くされたお母さんの
想いとして、この言葉はよくわかります。

十五日が満月で一番明るく、十六日から三十
日へとどんどん暗くなつていき、しかもワカ
ンムリは蓋ふたをするという意味ですから、亡
くなつた方は暗闇の世界、つまりいい所所へ
は行つてない、せめて灯りをつけて…という
発想です。

子は死にて／たどり行くらん死出の旅
／道知れぬとて／帰りこよかし

と、和泉式部が詠んでおられますように、
死出の旅に出たが、道がわからないから、と
言つて帰つて来てほしい。どんな理由でもい
い。もう一度目を開けてもらいたい、とい
う切なる親の心です。

③残された者が「いのち」に目覚める。

私の「いのち」にも必ず終わりがあります。しかも「老少不定」といわれるよう、年齢の順に死んでいくわけではありません。お互いに、どのような縁によって、いつこの人生を終えるのかわかりません。

しかし、阿弥陀如来はこのような私の「

①亡くなられた方に、もう一度目を覚まし
てほしい。目を開けてほしい。

②縁者が、しつかり目を覚まして、お灯明とうみょう・

お香の番をせよ。

③亡き方をご縁として、残された者が、我が
“いのち”的ありようと往く先をしつかり学
う考え方があります。

この言葉の前提には、亡き人が旅立つて行
き、その世界が暗がりであるため、灯りをつ
けてあげなければ行き先がわからない、とい

う考え方があります。

すでに「南無阿弥陀仏」とはたらいてくださっています。

ところが私たちはそのことを忘れ、いつでも「ほとけさま」ではなく「ほつとけさま」にしているのです。しかし、阿弥陀如来は決してあきることもなく、あきらめることもなく、この私のために働いて下さっているのです。

この阿弥陀さまのはたらきの内にありますから、人としてのご縁の尽きる時、お淨土に生まれ、仏として『誕生』させていただくことができるのです。

亡き方の人生を通して、「私がいのちの往く末を知らせていただけてこそ、本当に『目覚』と言えるのです。

阿弥陀如来が、「そのまままかせよ、必ず救う」とはたらいでくださっているのが、「南無阿弥陀仏」のお喚び声です。

この如來さまのはたらきを、私が受け取らせていただき、「有り難うございます」と、お礼のお念たいないことではござります」と、お念仏を相続させていただきたいものです。

※本願寺新報『みんなの法話』小林顯英先生の文を頂きました。

平成二十三年報恩講法要ご案内

◎十一月十二日(土)

昼席 午後二時(速夜)
夜席 午後七時(初夜)

◎十一月十三日(日)

朝席 午前十時三十分(日中)
※朝席は仏教婦人会のお座で、その後総会
昼席 午後一時三十分(速夜)ご満座

本願寺布教師

ご講師 植田 豊 師(十二日)
清岡 隆文 師(十三日)

◆年行司の方々によります、お志の受付は午後一時二十分よりしていただきます。

◆東北地方の被災地の一日も早い復興を願つて「東日本大震災義援金」募集を行っています。ご協力宜しくお願ひ致します。

報恩講さんです!!

「忙しくて参る暇がない」という人は、暇があつても参らない。仏法は寿命との競争である。

●報恩講は、年に一度の親鸞聖人の法事です。そして親鸞さまと(出遇う日)です。

●報恩講は、私自身の(お葬式)です。古い私が、エゴイズムの塊の(地獄・餓鬼・畜生)を抱える私が……命終していくからです。

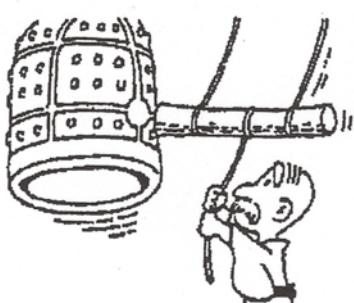
●報恩講は、私自身の(誕生日)です。生きとし生けるものすべてに支えられ生かれていることに気づかされた、新たな私が生まれるからです。

除夜会ご案内

◎十二月三十日(土)

午後十一時三十分より午前一時過ぎまで

◆深い静寂の中に、「ゴーンゴーン」と殷々と響きわたる鐘の音は、そのまま阿弥陀さまの「念佛せよ」との喚び声です。大晦日の夜、除夜の鐘を撞いて一年の仏事行事の締めくくりといった感じしよう。お正月はお家族そろってご仏壇に慶びのお参りをいたしましょう。



今日のいただいた
いのちをよろこび
お念佛の日暮らしを
お送りください

住職のひとり言



ていただいていることに、感謝で自然と涙があふれてきたことでした。
さあ！十一月は萬徳寺報恩講です。聖人のお徳を偲び、お法みのりを聴かせていただきましょう。

◆秋冷の期となり、朝夕の寒暖がめつきり増してきました。東北の方々は寒さはいかがでしょうか。東日本大震災の発生から早七ヶ月が経過しました。特に地震、大津波の被害だけに終わらず、原発、風評被害の四重苦に苦しんでおられる福島の方々。復旧、復興にはまだ長い年月がかかります。東北の御同朋の皆さまの悲しみに、今、私たちに何ができるか、考えていかねばなりません。

◆今年も報恩講の季節を迎えるました。今年は、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が、本山でお勤めになつています。私たち萬徳寺門信徒六十八名も九月十二日、十四日の両日、大型バス一台で団体参拝をいたしました。私たちの参拝席はなんと中央最前席!! お内陣のお莊嚴しょうごんのすばらしさが手に取るよう分かり大感激。午前十時から始まりました宗祖讃仰作法のお勤め。ご門主さま、新門さまがお言葉を述べられ、三千人を超える堂内のお同行と感動の一時間を過ごしました。親鸞聖人のみ教えが、今を生きる私たちの“いのち”とし

婆婆しゃばの縁尽き、仏となつて阿弥陀さまのお側に還つておられます。「人は愛欲の中にありて、ひとり生まれひとり死し、代わるものあることなし」。一人この世に生まれ、一人死んで行くわが身。どうぞ、この悲しみのご縁の中からお念佛の心（如來から賜たまわつたいの